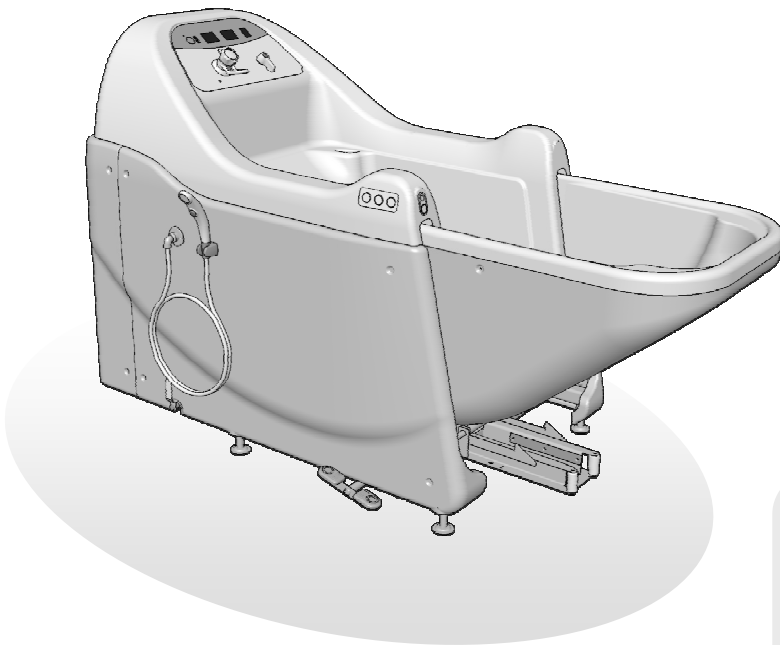
SAKAImed

# 取扱説明書

Cattleya

## スクーピングバス カトレア

## ＣＴＡ－１１０

＊このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

＊「取扱説明書」は
・１部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。
・１部を保存用として、大切に保管してください。

01-151⑥M5

## もくじ



### 用 途

本製品は、介助を必要とする入浴者を車椅子に座らせた状態で、快適かつ容易に入浴させることのできる入浴装置です。

### 特 長

**◆スクーピング式の入浴方式**
浴槽の前方部が昇降し、入浴者の乗った車椅子上部をすくい上げてリクライニングさせます。

**◆清潔で衛生的な入浴方法**
浴槽は省湯量となるように工夫され、一回の入浴毎に湯を全量入替える、清潔で衛生的な入浴を行うことができます。

**◆高い操作性**
スイッチ類のレイアウトを入浴介助が楽に行えるように工夫しています。

**◆安心・安全の対面進入方式**
介助者が入浴者を常に確認しながら、安全に浴槽内に進入できる対面方式を採用しています。

**◆コンパクトな浴槽**
浴槽の前方部が昇降しますので、狭い浴室でも十分に設置可能なコンパクト設計。浴槽への出入りに、広いスペースを必要としません。

**◆安全性の向上**
入出浴手順を単純化することで、誤操作を防止しています。また、高温時には給湯停止・送湯停止することで、火傷を防止する他、低温時にも給湯停止・送湯停止することで、危険を防止しています。

# 安全上のご注意

本製品を安全に正しくご使用していただくために、各注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。

注意事項を次のように区分しています。

⚠危険 ・・・ 取り扱いを誤ると、
死亡または重傷を負うことに至るもの

⚠警告 ・・・ 取り扱いを誤ると、
死亡または重傷を負う可能性が想定されるもの

⚠注意 ・・・ 取り扱いを誤ると、
傷害または物的損害の発生が想定されるもの

**絵表示の意味**

**禁　止：してはいけない「禁止」内容のものです。**

**強　制：必ず実行していただく「指示」内容のものです。**

**電源・給湯水・給湯水圧**

## ⚠警告

**サービスマン以外は、電源の接続を行わない**

正しく接続しないと故障や事故の原因になります。

**サービスマン以外は、給湯水の接続を行わない**

正しく接続しないと水もれ等の故障や事故の原因になります。

**適正圧力及び圧力比範囲となるよう管理**

適正範囲を外れると、給湯やシャワーの湯温が急変することがあり、入浴者及び介助者がやけどをする恐れがあります。(P.12 給湯水圧参照)

## ⚠注意

**使用電圧は単相 100V ±5%の範囲内で使用する**

範囲外の場合には機器の故障及び誤作動の原因となります。

入浴剤・薬液

## ⚠ 危険

**次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない**

人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。万が一塩素ガスを吸込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

## ⚠ 注意

**当社指定外の薬液を使用しない**

イオウ系の薬液等は浴槽の金属部や電気部品、ゴム部品等を腐食させます。ご使用になり装置が故障した場合は、保証期間内の製品でも、保証対象となりませんのでご注意ください。

**入浴中に薬液の投入は行わない**

入浴者に健康被害を及ぼす恐れがあります。

**推奨濃度より濃い濃度で殺菌しない**

機器の破損につながる恐れがあります。

**着色性及びイオウ成分の入った入浴剤は、使用しない**

ご使用になると、よごれを落としにくくなったり、金属の腐食等を起こす恐れがあります。

**薬液を取り扱うときは、容器に書かれている使用上の注意をよく読む**

- 各注意事項をお守りください。
- 周囲に薬液がこぼれた場合は水でよく洗い流してください。床やフレーム等の変色や錆の原因となります。

**薬液を使用したときは、入浴作業終了後、きれいに洗い流す**

残っていると、変色や錆の原因となります。

入浴者の車椅子上への移乗と車椅子での移動

## ⚠ 警告

**入浴者をフットレストの上に立たせない**

車椅子後部が浮き上がり非常に危険です。

**車椅子上へ移乗させるときは、キャスターを必ずロック**

ロックしていないと、車椅子が移動し事故の原因になります。

**車椅子に乗せたら、必ず手すりを握らせ、ひじを手すりの内側に入れ、安全ベルトを使用する**

- 握っていないと上肢が車椅子の外側に出てけがをする恐れがあります。握れない入浴者の場合には、上肢を保持するベルトなどを用いるなどして、上肢が車椅子の外側に出ないようにしてください。
- ベルトをしなかったり、ベルトをゆるめ過ぎるなど固定が適切でないと、身体がずれて落下したり、ベルトの端面やバックルで擦れてけがをする恐れがあります。

**車椅子を移動するときは、浴室の排水溝蓋の隙間等に注意**

キャスターが隙間等に挟まると、車椅子が傾いたり、転倒する恐れがあります。

## ⚠ 注意

**車椅子の移動は、ゆっくり**

入浴者に不安感を与えないようにゆっくり行ってください。特に、強い力で車椅子を押し引きして手を離したりせず、必ず最後まで手を添えて移動を行ってください。

## ⚠ 警告

**送湯中や入浴中の入浴者の状態に注意**

水没等がないように、常に看視してください。

**フロント浴槽を昇降させる際には周囲を確認し、入浴者の手足に注意**

フロント浴槽の動作範囲内に人や障害物があると、事故の原因となります。また、足先や手先が挟まれると、けがをする恐れがあります。

**車椅子上下を分離/合体させるときは、入浴者の足元に注意**

- 入浴者の足がフットレストから落ちていると車椅子上下の分離/合体時に車椅子下部に足をぶつけ、けがをする恐れがあります。
- 入浴者の足先がフットレストから落ちているとフロント浴槽の上昇時に足をぶつけ、けがをする恐れがあります。

**車椅子使用時は安全ベルトと手すりを使用**

車椅子を使用するときは安全ベルトと手すりを使用してください。

**リクライニング操作は、ゆっくりと**

リクライニングを起こすときに（角度を 55° から 75° にするとき）勢いよく持ち上げると、車椅子後方が浮き上がり、前に転倒する恐れがあります。

**入浴用車椅子上での移乗・洗髪・洗身作業時の注意**

狭い入浴用車椅子上での移乗・洗髪・洗身作業は入浴者の転倒や落下の恐れがあります。体位変換作業は、介助者の方向へ抱き寄せるようにして、入浴者の落下を介助者が体で防止しながら十分注意して作業を行い、洗身時はベルトを使用してください。

## ⚠ 注意

**フロント浴槽に無理な力をかけない**

フロント浴槽を無理に昇降させたり、上昇したフロント浴槽にぶらさがったりすると、破損する恐れがあります。

**フロント浴槽の昇降中は、排水栓を開けない**

フロント浴槽の昇降中に排水操作ペダルを踏んで排水栓を開けると、フロント浴槽が破損する恐れがあります。

**フロント浴槽を下降させるときは、浴槽内の湯が完全に排水されているか確認する**

浴槽内の湯が完全に排水されておらず、フロント浴槽を下降させると、湯が流れ出て事故の原因となります。

**浴槽[連結解除]スイッチを押す際は入浴用車椅子の側面へ移動して押す**

正面から解除スイッチを押すと車椅子を浴槽へ押しながらスイッチを押してしまうことがあり、誤動作が起きて車椅子が落下する恐れがあります。

**車椅子の各操作は、ゆっくり**

入浴者に不安感を与えないように勢いをつけず、ゆっくり行ってください。

**浴槽進入時にはフットレストを必ず持ち上げる**

フットレストを持ち上げないまま浴槽に進入させるとハンドルが浴槽に当たり事故につながります。必ずフットレストを浴槽内進退用ハンドルで持ち上げてから浴槽へ進入させてください。

送湯及びシャワー

## ⚠警告

**ハンドシャワーをかけたままにして入浴者から離れない**

介助者が離れている間に温度が急変し、やけどをする恐れがあります。

**ハンドシャワーを入浴者にかける前や使用中にも必ず手で湯温を確認**

- 熱い湯が配管内に溜まっている場合がありますので、確認する前に安全な所に吐水して、最初の湯は捨ててください。
- 温度調節ノブを回した後、湯温が設定温度になるまでに数秒かかりますので注意してください。
- 温度調節ノブで温度調節した後でも、給湯・給水の水圧の急変により、シャワーの温度が急に変わることがありますので常に手で湯温を確認してください。

**ハンドシャワーの温度調節ノブはゆっくり回す**

急に回すと温度が急激に変化し、やけどをする恐れがあります。

**高温でハンドシャワーを使用した後は、必ず温度調節ノブを元に戻す**

そのままにしますと、次に使用するときにやけどをする恐れがありますので、低温側に回して、しばらく湯を流してください。

**送湯前にタンク内湯温表示で湯温を確認**

入浴開始前には必ずタンク内の湯温をタンク内湯温表示で確認してください。確認しないで入浴スイッチを押すと、入浴者の臀部辺りから熱めの湯が止まらないで、浴槽に送湯され、入浴者にやけどを負わせる恐れがありますので、介助者の方は手を入れて再度、湯温を確認してください。

## ⚠注意

**流量調節ノブはゆっくり回す**

ノブを閉の方に急に回すと、水圧が高くなり配管から水漏れを起こす原因になります。

**使用後は流量調節ノブで湯を止めてから、シャワーホース内の加圧水をすてる**

手元ボタンのみでシャワーの ON/OFF 操作を行っていると、シャワーヘッドの寿命が短くなります。またホース内に加圧された水を残こしたままにすると故障の原因になります。

ご使用後

## ⚠ 警告

**操作部後側のメンテナンスカバーを勝手に開けない**

操作部後側のカバーはメンテナンス用です。サービスマン以外は、カバーを取りはずして中の機械に触れないでください。

## ⚠ 注意

**操作スイッチにシャワー等で水をかけない**

水がかかると電気系統の故障の原因になります。

**入浴しないときは、フロント浴槽を作動させない**

フロント浴槽を上昇させ長時間シールしたまま放置すると、シール性が低下して水漏れする恐れがあります。

**この製品は、一部に天然ゴムを使用しています**

かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、医師に相談し、適切な措置を施してください。

**使用後は、必ずタンク内の湯を排水する**

水垢などがタンク内面にこびりつき、汚れが落ちにくくなります。

**使用後は、必ず換気を行い室内の湿度を下げる**

湿気による錆やかびなどの発生を抑えます。

**電源を切る際は、必ず自動給湯ランプが消えていることを確認する**

自動給湯が ON のまま電源を切ると、貯湯タンク内に水が給湯され続けます。また、自動給湯が停止するには時間がかかるので自動給湯 OFF 後、約 15 秒おいた後に電源を切ってください。

**納入時のビニールカバーは、破棄する**

製品にかけて使用すると、錆などが発生しやすくなるので、絶対に使用しないでください。

# 各部の名称

浴 槽

給湯操作部
↳P.9
連結解除操作部
↳P.10
ハンドシャワー
↳P.18
フロント浴槽操作部
↳P.10
フロント浴槽
タンク排水レバー
（両側）
排水操作ペダル
（両側）
椅子ガイド

## 各操作パネルの働き

### ● 給湯操作部

**自動給湯スイッチ**
押すごとに自動給湯の切/入ができます。
↳ P.13

**自動給湯ランプ**
自動給湯作動中は点灯します。
↳ P.13

**タンク内湯温表示部**
貯湯タンク内の温度を表示します。
高温時･･･点滅
低温時･･･c0 と交互表示
↳ P.14

**タンク内湯量ランプ**
各ランプが点灯して貯湯タンク内の湯量を表示します。
↳ P.13

**給湯温度表示部**
貯湯タンクへの給湯温度を表示します。
高温時･･･点滅
低温時･･･c0 と交互表示
↳ P.13

**入浴時間計**
入浴の経過時間を表示します。
↳ P.19



**停止スイッチ**
送湯を停止するスイッチです。
↳ P.16

**入浴スイッチ**
送湯を開始するスイッチです。
↳ P.16

**排水栓開ランプ**
排水栓が開いていると点灯します。
↳ P.17

**フロント浴槽開ランプ**
フロント浴槽が下がっていると点灯します。
↳ P.15

**ハンドシャワー 高温警告ランプ**
ハンドシャワーの湯温が高温のとき点滅します。
↳ P.18

**ハンドシャワー ミキシングバルブ**
ハンドシャワーの湯温と流量を調節します。
↳ P.18

**給湯ミキシングバルブ**
貯湯タンクへの給湯温度を設定します。
↳ P.13

## ✸ 連結解除操作部

## ✸ フロント浴槽操作部

# 組み合わせ

◆ **周辺装置（別売り）**

入浴用車椅子　・・・・・CTA-110C

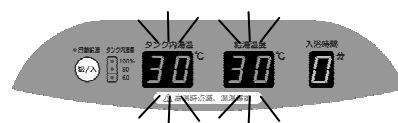
浴槽と入浴用車椅子を組み合わせて使用します。
操作方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

# ご使用になる前に

ご使用前に本製品についてP.36 **始業点検項目**にもとづき、始業点検を実施してください。またこれ以外でも部品が破損しているなど、日頃お使いになられていたときとは違う異常を感じましたら、本製品を使用せずに、電源を切って最寄りの営業所にご連絡ください。破損、異常を感じたままのご使用は、危険ですから絶対におやめください。

新品時は、FRP 特有のにおいがすることがありますが、使用上問題はありません。十分換気を行ってご使用ください。においは使っているうちになくなります。

## 電源

使用前に必ず浴槽用電源のブレーカーを点検してください。浴槽用電源を入れ、浴槽操作部の表示ランプ類が表示されていることを確認してください。

## 給湯水圧

本機に供給される湯及び水の適正使用圧力は 150～200 kPa(約 1.5～2.0 kg/cm²)です。圧力比は変動を含んでも最大　２：１　です。適正範囲内でご使用ください。

**⚠警告　適正圧力及び圧力比範囲となるよう管理**

適正範囲を外れると、給湯やシャワーの湯温が急変することがあり、入浴者及び介助者がやけどをする恐れがあります。

## 入浴剤・薬液の使用

### ◆入浴剤について

入浴剤を使用する場合は、入浴剤の使用上の注意をよく読んでください。浴槽(FRP)や配管等に悪影響を及ぼすようなイオウ成分の入った入浴剤は使用しないでください。

### ◆薬液について

浴槽を殺菌する場合は、次亜塩素酸ナトリウム（6%溶液）を使用してください。他の薬液を使用したり、他の溶液と混ぜて使用したりしないでください。（殺菌方法はP.34参照）

**危険　次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない**

人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。

**●ご使用中に…**

万一故障が発生したら、ただちに入浴者を安全な場所に退避させた後、使用を中止して最寄りの営業所へご連絡ください。

# 操作方法(各部)

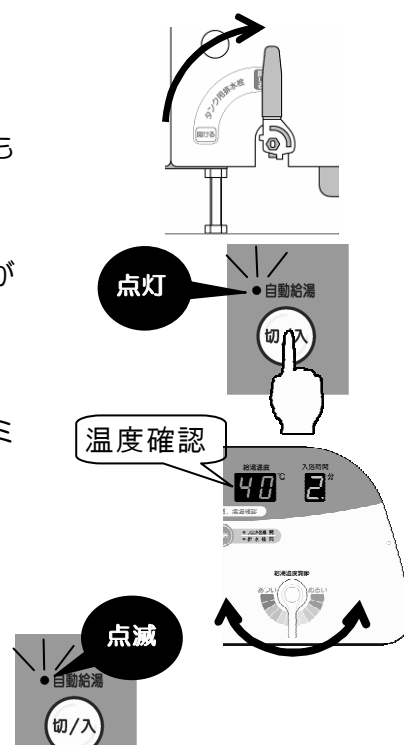
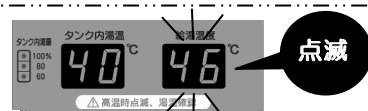
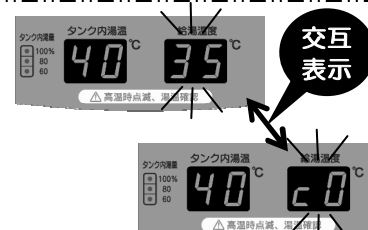
## 貯湯操作

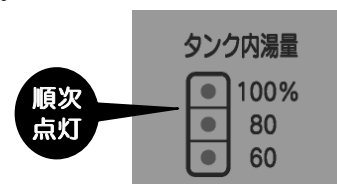
### ✹ 自動給湯

1　浴槽後方の両側にあるタンク排水レバーを両側とも閉じる位置にします。

2　自動給湯切/入スイッチを押すと自動給湯ランプが点灯し、貯湯タンクに給湯を開始します。

3　給湯温度の調節は給湯温度表示を見ながら、給湯ミキシングのレバーを動かして行います。
（適温にしてタンクに貯湯します）

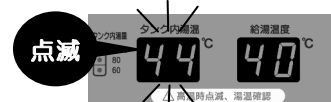
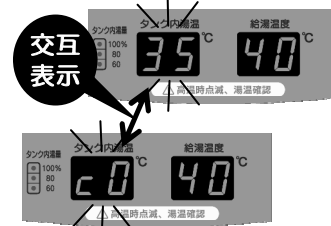
貯湯タンク内に給湯される湯温は**約 36～45℃**に調整してください。範囲外のときは、給湯が自動停止して自動給湯ランプが点滅します。

● **高温のとき**(約 46℃以上)はデジタル表示部が点滅して温度が高いことを知らせます。

● **低温のとき**(約 35℃以下)はデジタル表示部に **c0** と実際の温度を交互に表示して温度が低いことを知らせます。

このとき、自動給湯スイッチを押し、給湯ミキシングを適温に調節することで（自動給湯ランプ点灯)再給湯されます。

4　タンク内の水位が上がるとタンク内湯量ランプ(60%,80%,100%)が順次点灯し、満水になると給湯は自動停止します。

**参考**　最後の入浴者が入浴する際は、タンク内湯量ランプが 100%まで点灯していることを確認した後、自動給湯切/入スイッチを押して給湯を止める（自動給湯ランプ消灯）ことで湯を節約することができます。

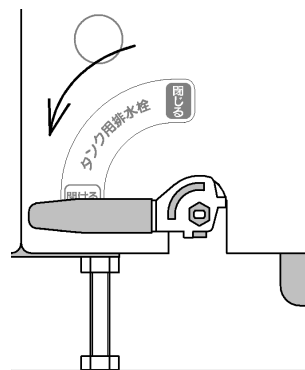
**ご注意**
・電源を入れて最初の自動給湯では、湯温が安定するまでの 3 分間は給湯温度範囲外(35℃以下)の水でも給湯されます。
・電源を切る前に必ず自動給湯を切にしてください。

## タンク内高温及び低温時の操作

貯湯タンクから浴槽へ送湯できる湯温は**約 36～43℃**です。範囲外のときは入浴スイッチを押しても作動しません。

● **高温のとき**(約 44℃以上)はデジタル表示部が点滅して温度が高いことを知らせます。

● **低温のとき**(約 35℃以下)はデジタル表示部に **c0** と実際の温度を交互に表示して温度が低いことを知らせます。

タンク内が満水で湯温が範囲外になっている場合は、タンク排水レバーを開けて少し排水してから自動給湯を入にし、給湯ミキシングバルブを調節してタンク内湯温が適温になるように足してください。

## 貯湯タンクの排水操作

排水は、貯湯タンクの左右にあるタンク排水レバーを開ける位置に回します。

**参考** タンク内にお湯が入っていないときは、入浴スイッチを押しても開始することができません。給湯については、P.13 **貯湯操作**を参照してください。

**ご注意** 動作が開始しない場合や、突然動作が止まった場合は、湯量が不足しているかまたはタンク内の温度が範囲外となっています。P.13 **貯湯操作**または P.14 **タンク内高温及び低温時の操作**を参照し、タンク内に適温の湯を貯めてください。

## フロント浴槽の昇降操作

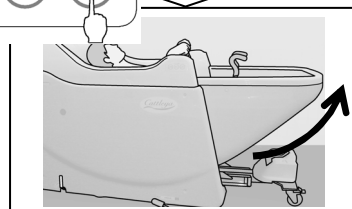
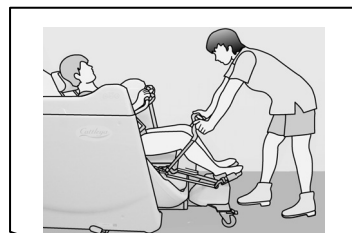
### ◆上昇

1　車椅子を浴槽内の奥まで進入させます。

2　フロント浴槽が5秒間、自動的に上昇して停止します。（P.27　2 浴槽への進入参照）

3　フロント浴槽上昇スイッチを押します。

4　フロント浴槽が上昇して入浴位置で止まり、フロント浴槽開ランプが消灯します。

5　フロント浴槽上昇中に途中で止める場合は、フロント浴槽停止スイッチを押します。

### ◆下降

1　フロント浴槽下降スイッチを押します。

2　フロント浴槽はゆっくり下降し、フロント浴槽開ランプが点灯し、格納位置で止まります。

3　フロント浴槽下降中に途中で止める場合は、フロント浴槽停止スイッチを押します。

**参考**

・排水操作ペダルが開ける側に踏まれた状態（排水栓 開ランプが点灯）ではフロント浴槽の昇降動作はできません。その場合は、排水操作ペダルを閉じる側に踏んでください。（排水栓 開ランプが消灯、P17 **浴槽の排水操作**参照）

・浴槽内に湯水がある場合は、フロント浴槽下降スイッチを押してもフロント浴槽は下降しません。排水操作をして、排水操作ペダルを閉じる側に踏んでから下降スイッチを押し、下降させてください。

・車椅子を浴槽に入れないでフロント浴槽の昇降をするには、P.33 **日常のお手入れ**を参照してください。

・フロント浴槽の昇降中に排水操作ペダルを踏むと、フロント浴槽は停止します。

・椅子合体完了ランプが点滅中はフロント浴槽の上昇動作はできません。その場合は、車椅子の上部と下部を合体させ、浴槽から切り離し、再度浴槽内に押し込み、連結させてください。（P25 **上下分離操作**参照）

**ご注意**

・フロント浴槽が格納位置や入浴位置にあるときに、上昇、下降スイッチを押して昇降した場合、2秒間は停止できません。昇降させる前は注意してください。

・フロント浴槽の自動上昇中と下降中は、車椅子の浴槽内進退用ハンドルを持ってください。

⚠ **警告　　フロント浴槽を昇降するときは周囲を確認し、入浴者の手足に注意**

## 入浴の開始・停止

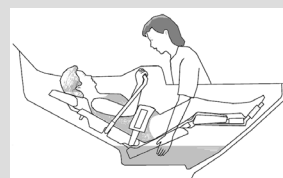
### ✹ 入浴の開始

フロント浴槽を入浴位置まで上昇させた後に、入浴スイッチを押します。貯湯タンクから浴槽内へ送湯が開始します。浴槽内の水位が所定の位置になると送湯は止まります。

**⚠ 警告　・送湯前にタンク内湯温表示で湯温を確認**

入浴開始前には必ずタンク内の湯温をタンク内湯温表示で確認してください。確認しないで入浴スイッチを押すと、熱めの湯が止まらないで、浴槽に送湯がされ、入浴者にやけどを負わせる恐れがあります。

**・必ず手で湯温を確認**

入浴者の臀部辺りから送湯されるので、介助者は手を入れて湯温を確認してください。温度センサー等が故障した場合、高温の湯が止まらないで浴槽に送湯され、入浴者にやけどを負わせる恐れがあります。

送湯の際にポンプを通りますので、炭酸泉水を使用の際は、炭酸が抜けてしまい充分な効果が得られないことがあります。

### ✹ 入浴の停止

送湯を途中で止めるには、停止スイッチを押します。

送湯のときにフロント浴槽開ランプが点灯していると、浴槽のシールが不完全な状態なので送湯できません。もう一度上昇スイッチを押し、ランプが消灯したことを確認してから入浴スイッチを押してください。

### ✹ 入浴休止・終了の注意

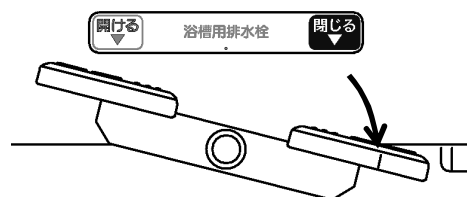
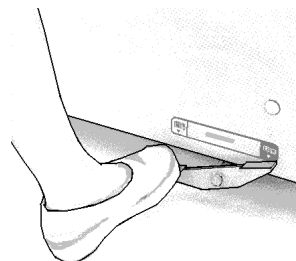
１日の入浴作業の終了や昼休みなどで入浴作業を休止する場合は、入浴用車椅子を浴槽の外へ退出させ、フロント浴槽を下げたままにしてください。

**注意　入浴しないときは、フロント浴槽を上昇させない**

## 浴槽の排水操作

1　浴槽の排水は、浴槽左右側面下部の排水操作ペダルを開ける側に踏むことで行います。（排水栓 開 ランプ 点灯）

2　排水が終了したら排水操作ペダルを閉じる側に踏みます。（排水栓 開ランプ 消灯）

開ける側のままだとフロント浴槽の昇降ができません。

**ご注意**　排水操作のとき以外は排水操作ペダルを踏まないでください。

## 浴槽からの入浴用車椅子切り離し操作

出浴するとき、車椅子の上下がしっかり合体されている状態（椅子合体完了ランプ点灯）で、固定浴槽左前面上の浴槽連結解除スイッチを押すと、車椅子を浴槽から切り離すことができます。車椅子の操作はP.20　**入浴用車椅子の操作方法（各部）**、P.26　**入浴手順**を参照してください。

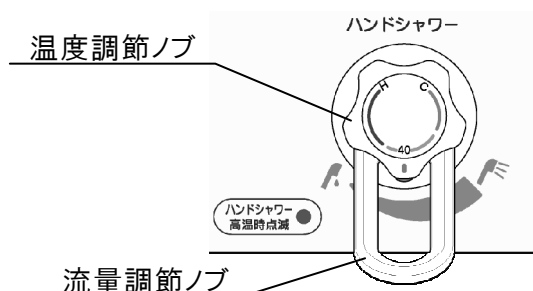
**⚠注意　浴槽連結解除スイッチを押す際は入浴用車椅子の側面へ移動して押す**

正面から解除スイッチを押すと車椅子を浴槽へ押しながらスイッチを押してしまうことがあり、誤動作が起きて車椅子が落下する恐れがあります。

**参考**　浴槽連結解除スイッチを押してから約５秒以上、車椅子を移動させなかった場合、自動的に再固定されます。その場合は、もう一度浴槽連結解除スイッチを押してください。

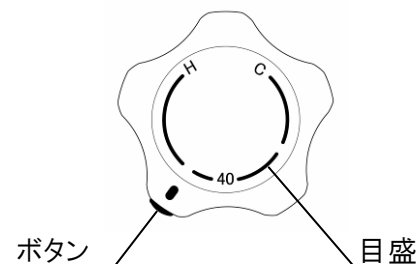
## ハンドシャワー操作

1　流量調節ノブで、ハンドシャワーの開閉及び流量調節を行います。

 **注意　流量調節ノブはゆっくり回す**

2　温度調節ノブで、シャワーの温度調節を行います。温度調節ノブをHの方に回すと温度が上がり、Cの方に回すと温度が下がります。

シャワーの湯温が43℃以上になった場合は、高温警告ランプが点滅して、温度が高いことを知らせます。高温警告ランプが点滅していても、シャワーは吐出し続けるので注意してください。

3　温度調節ノブには、誤って熱湯を出さないようにボタンが付いています。(温度調節ノブをHの方に回すと、目盛“40”付近で停止します)

　高温のお湯を出す場合には、ボタンを押したまま温度調節ノブを回すことにより使用できますが、やけどの恐れがあるため、通常はノブの停止位置より温度の低い範囲でご使用ください。

 **警告**
- **シャワーを入浴者にかける前や使用中も絶えず手で温度を確認**
- **温度調節ノブはゆっくり回す**
- **シャワーをかけたままにして入浴者から離れない**
- **高温でお湯を使用した後は、必ず温度調節ノブを元に戻す**
  熱い湯が配管内に溜まっている場合がありますので、確認する前に安全な所に吐水して、最初の湯は捨ててください。

4　ハンドシャワーは、手元ボタンを押すごとに吐出のON/OFFを切替えることができます。

但し、手元ボタンのため、止水が不十分になる場合があります。

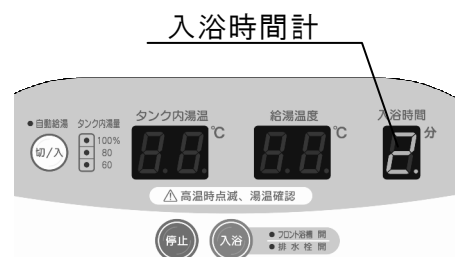
 **注意　使用後は流量調節レバーで湯を止めてから、シャワーホース内の加圧水をすてる**

**参考**　浴槽内の湯温の低下を防止したり、オーバーフローから垢や汚れを流し出すために、ハンドシャワーで差し湯ができます。

## 入浴時間

操作パネルに入浴時間計があります。入浴スイッチを押して、送湯が開始されると、入浴時間計がカウントを始めます。（時間計右下の点が点滅します）

0～9 分までは 1 分おきにカウントし、10 分以上は、**9.** の点滅になります。

排水が終了したときにカウントが停止します。
表示はフロント浴槽が格納位置まで下降すると **0** に戻ります。

**参考** 排水終了後のカウント停止中に、フロント浴槽が入浴位置にあれば、再度入浴スイッチを押すことで、カウントが継続されます。

## 停電時の操作

入浴中に停電や故障などで浴槽が動かないときは、次の手順を行ってください。

1 入浴者を抱きかかえて浴槽の外に出します。

2 浴槽用の元バルブを閉じます。

3 排水操作ペダルを開ける側に踏み、浴槽内の湯を排水します。

4 排水操作ペダルを閉じる側に踏みます。

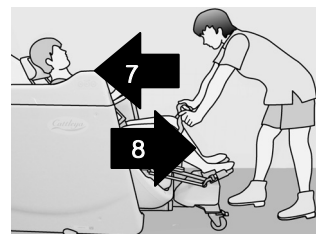
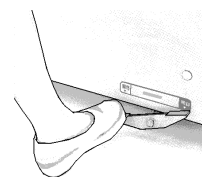
5 電源が復帰したら、下降スイッチを押して、フロント浴槽を格納位置まで下降させます。

6 浴槽内進退用ハンドルを握って、車椅子上部を下部と合体する位置まで引き出します。

7 車椅子上部と下部が合体後、再度、浴槽内に車椅子を押し込み、車椅子上部と下部を分離させます。

8 再度、車椅子上部を下部と合体させる位置まで引き出します。車椅子上部と下部が合体し、椅子合体完了ランプが点灯します。

9 車椅子上部と下部がしっかり合体されている状態で、固定浴槽左前面上の浴槽連結解除スイッチを押します。

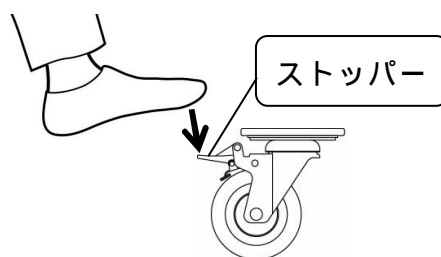
10 車椅子を浴槽から切り離します。

# 入浴用車椅子の操作方法(各部)

## キャスター

4輪全てのキャスターにストッパーがついています。

移乗作業、洗身作業、清拭作業時等のように入浴用車椅子上で作業をするときは、車椅子が動かないようにロックしてください。

**ロック**

キャスターのストッパーを踏みます。

**解除**

解除用ノッチを踏みます。

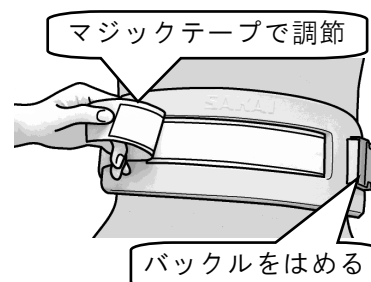
**警告**　**停止しているときは、必ずキャスターをロックする**

ロックされていないと、車椅子が動いて入浴者が落下する恐れがあります。

**傾斜のきつい浴室床面やグレーチング上に停止させない**

滑って転倒する恐れがあります。

## 安全ベルト

車椅子へ入浴者を移乗させたらパッド付き安全ベルトのバックルをはめ、入浴者に合わせ、マジックテープで長さを調節します。

**警告**　**車椅子に乗せたら、必ず安全ベルトを着用する**

ベルトでの固定が適切でないと、入浴者が落下してけがをする恐れがあります。

**安全ベルトを外したときには、入浴者のそばから絶対に離れない**

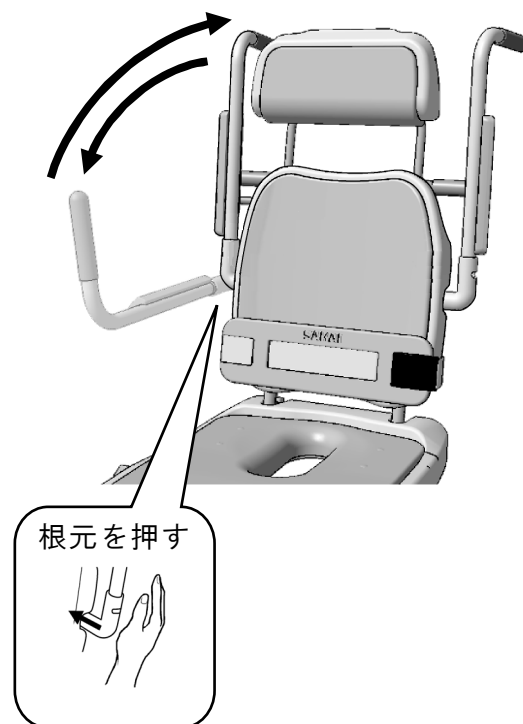
ベルトを外すと、入浴者が落下する恐れがあります。

**注意**　**安全ベルトの損傷に注意**

## 手すり

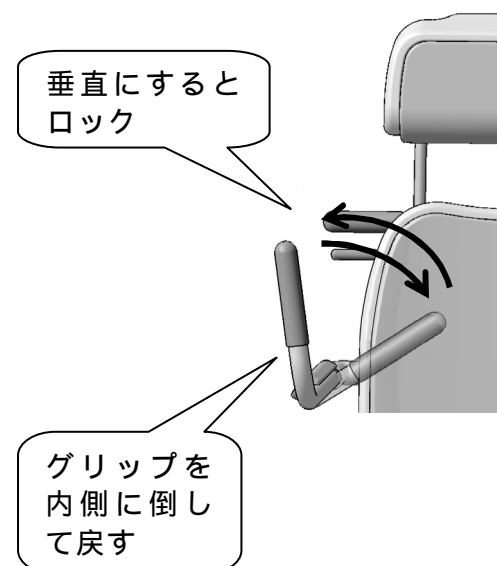
移乗などの際に、手すりや手すりのグリップが邪魔になるときには、手すりを跳ね上げたり、グリップを立てたりすることができます。サイドから移乗する場合は反対側の手すりは水平のままにしてください。

### 手すりを上げる

跳ね上げるときには、手すりの根元を押して、手すりを回転させてください。入浴者の顔に手すりが当たらないように、グリップを外側に回転させて行ってください。

### 手すりを下ろす

跳ね上げた手すりを下ろすときは、手すりの根元を押して、グリップを外側に回転させたまま下ろします。

### グリップを立てる

グリップを外側に回転させると、ほぼ垂直の位置でロックします。

### グリップを戻す

**グリップを内側に回転させるとロックがはずれ、バネの力で元の位置に戻ります。**

**入浴者を車椅子に乗せたら、必ずグリップを倒し、手すりを握らせてください。**

 **警告　車椅子に乗せたら、必ず手すりを握らせる**

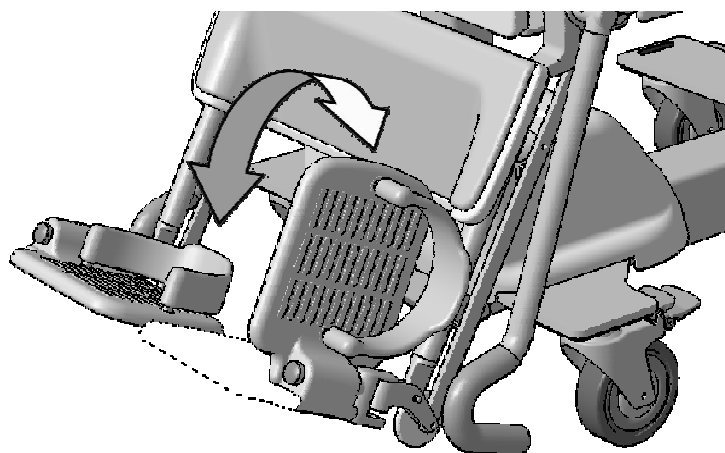
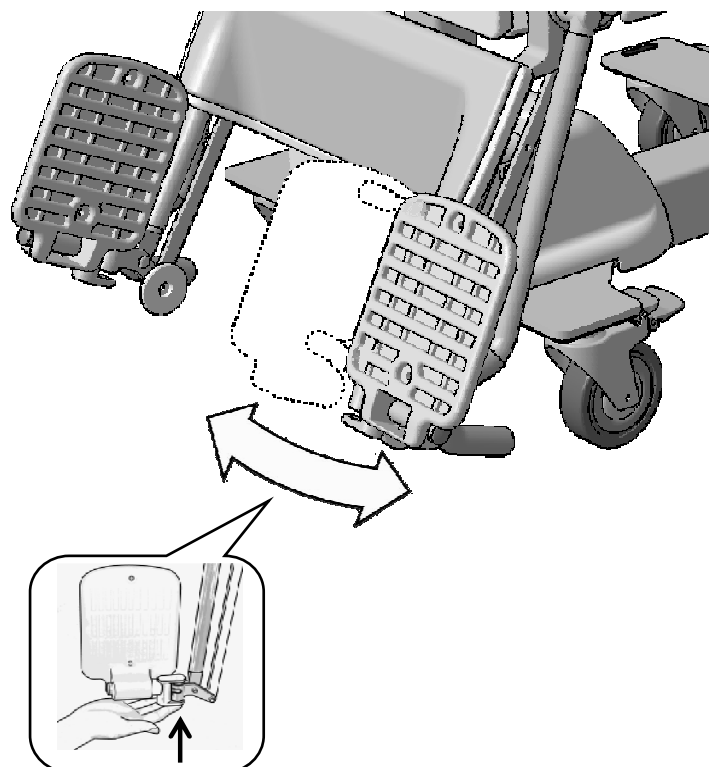
握っていないと上肢が車椅子の外側に出て入浴時などにけがをする恐れがあります。

## フットレスト

移乗の際は、フットレストを上に跳ね上げ、外側に回転させて、入浴者の足周りを開放します。

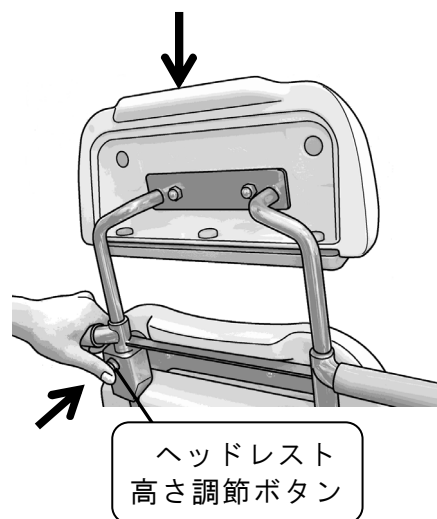
### 跳ね上げ

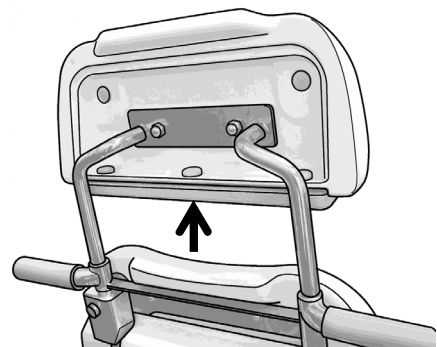
フットレストの先端を持ち、フットレストの根元を中心にして上方向に 90°回転させて、フットレストを跳ね上げます。

### 回転

フットレストの根元を上に持ち上げて、外側に 90°回転させます。

## ヘッドレスト

入浴者の体格に合わせてヘッドレストの高さを８段階に調節できます。

下げる

ヘッドレストを下げるときは背当裏面のヘッドレスト高さ調節ボタンを押して、ヘッドレスト上部を押して下げます。

上げる

ヘッドレストを上げるときはボタンを押さずにヘッドレストの下部を持って引き上げます。

**⚠注意　ヘッドレストの高さ調節はゆっくりと行い、必ずロックを確認**

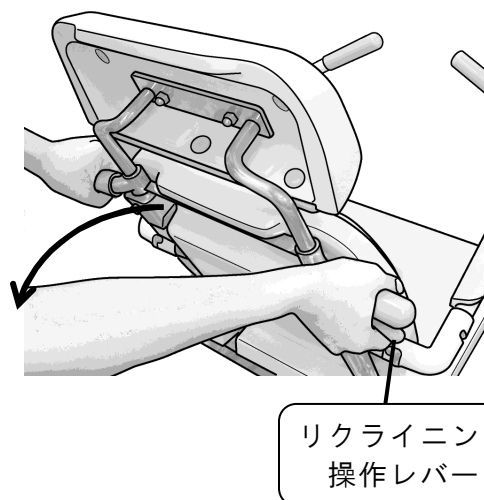
## 背当

入浴者の状態に合わせ背当のリクライニング操作を行います。リクライニングした角度は 55°、起きているときの角度は 75°の 2 段階です。

リクライニング操作

1　両手で走行用ハンドルを握り、背当を支えます。

2　右手の指でリクライニング操作レバーを持ち上げてゆっくりリクライニングさせます。

3　設定角度になったらレバーを離して背当をロックさせます。

**⚠警告　リクライニング操作は、ゆっくりと**

角度を 55°から 75°へ勢いよく持ち上げると、転倒する恐れがあります。

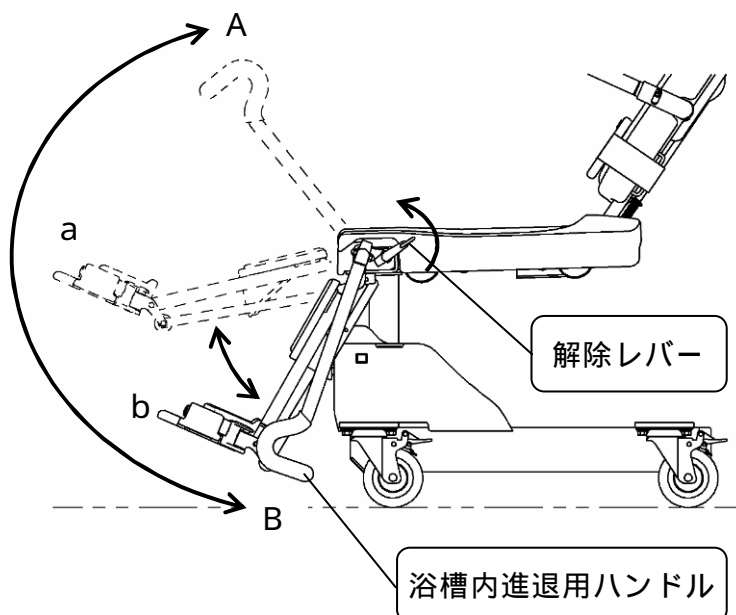
## 浴槽内進退用ハンドル

浴槽へ車椅子を進入させるために、入浴者の足を乗せたままフットレストを持ち上げます。

フットレストを上げる

浴槽内進退用ハンドルを握って、ハンドルがロックする位置（下図Ａの位置）まで持ち上げると、フットレストが一緒に上がり、下図ａの位置でロックします。

フットレストを下ろす

浴槽内進退用ハンドルを下図Ａの位置からやや持ち上げ気味にしながら解除レバーを手前に引くように回転させロックを解除します。ハンドルを下図のＢの位置までゆっくり下ろすと、フットレストが下図ｂの位置まで下がります。

 **注意　・浴槽進入時にはフットレストを必ず持ち上げる**

フットレスト持ち上げないまま浴槽に進入させますとハンドルが浴槽に当たり事故につながります。

**・フットレストを下げるときは浴槽内進退用ハンドルを途中で離さない**

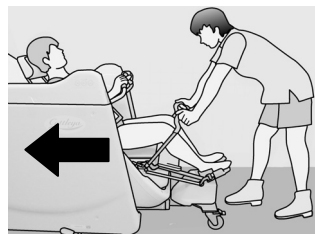
浴槽内進退用ハンドルを途中で離すとフットレストが急激に落ちて危険です。

## 上下分離操作

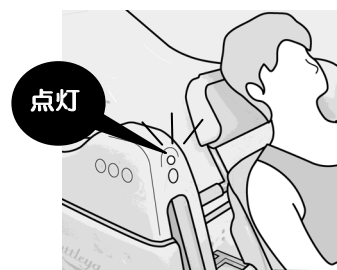
入浴時に車椅子上部と下部を分離し、出浴時に車椅子上部と下部を合体します。

### ◆分離

1　浴槽内進退用ハンドルを握って、車椅子を浴槽内へ押し込むと、車椅子が浴槽に連結されます。

2　さらに押し込むと車椅子上部と下部が分離します。

### ◆合体

1　浴槽内進退用ハンドルを握って、車椅子上部を下部と合体される位置まで引き出します。

2　車椅子上部と下部が合体し、椅子合体完了ランプが点灯します。

椅子合体完了ランプが点滅　…車椅子上部と下部の合体が完全ではありません。椅子合体完了ランプが点灯に変わるまで、車椅子上部を引き出してください。

・合体完了後は、車椅子を浴槽から切り離さないと、再度入浴はできません。

⚠ **警告**　**・車椅子上部と下部を分離/合体させるときは、入浴者の足元に注意**

入浴者の足がフットレストから落ちていると、けがをする恐れがあります。

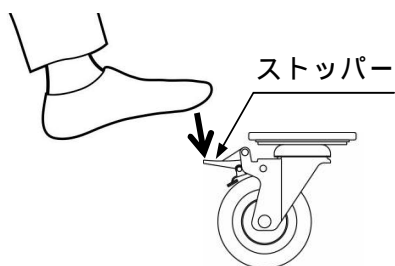
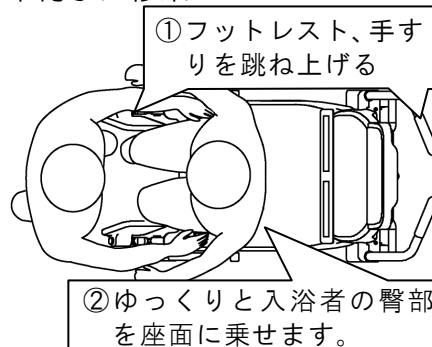
**・車椅子を浴槽内へ押し込むときは、入浴者の上肢に注意**

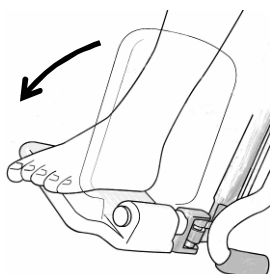
入浴者の上肢が車椅子の外側に出ていると、けがをする恐れがあります。

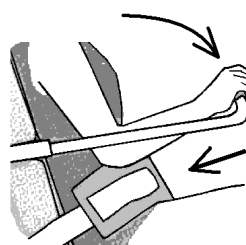
# 入出浴手順

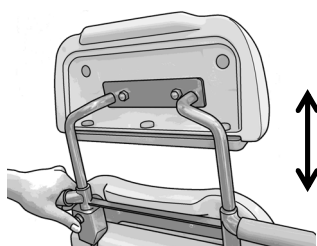
◎ P.13 **操作方法（各部）**、P.20 **入浴用車椅子の操作方法（各部）**を参照し、注意事項を守りながら入出浴の操作をしてください。

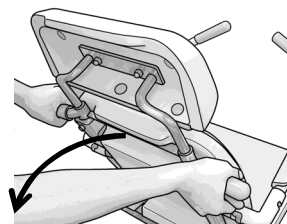
## 1 車椅子への移乗

❶ 車椅子のキャスターをロック

❷ 車椅子に移乗

**⚠ 警告　車椅子への移乗作業等は落下・転倒に注意**

❸ フットレストに足を乗せる

**⚠ 警告　入浴者をフットレストの上に立たせない**

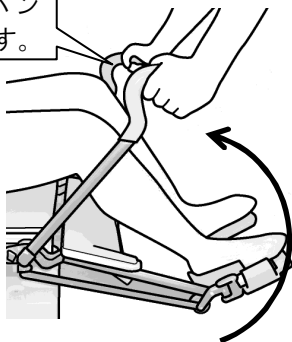
❹ 安全ベルトを着用し、手すりを握らせる

**⚠ 警告　車椅子に乗せたら安全ベルトを必ず使用する**

❺ 枕の高さを調節

P.23 参照

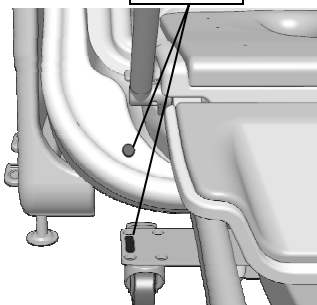
❻ 必要により背当をリクライニング

P.23 参照

# 2 浴槽への進入

❶ フットレストの持ち上げ

浴槽内進退用ハンドルを使用します。

❷ 浴槽へ進入

背部から浴槽へゆっくり進入させます。

車椅子と浴槽の青マークを合わせる

❸ 車椅子の上下分離

浴槽と連結後、車椅子をさらに押すと、車椅子上部と下部が分離します。

分離するときは入浴者の足元に注意。

❹ フロント浴槽が５秒間、自動上昇

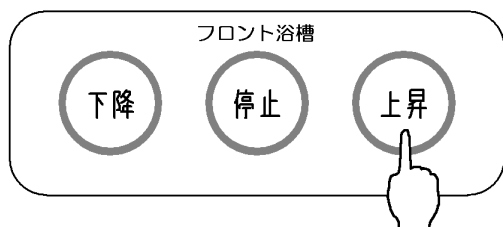
車椅子の上部を固定浴槽内の奥まで押し込むとフロント浴槽が 5 秒間自動上昇します。

**ご注意**　車椅子の移動は、入浴者に不安感を与えないように勢いをつけず、ゆっくり行ってください。

車椅子を浴槽奥まで押し込んでもフロント浴槽が上昇しない場合は、もう一度引き戻し、約５秒間待ってからしっかり押し込んでください。

# 3 入浴

❶

フロント浴槽を上昇させる

自動上昇終了後、フロント浴槽[上昇]スイッチを押すと、フロント浴槽が入浴位置まで上昇します。

⚠ **警告　入浴者の手足の挟み込みに注意**

❷

フロント浴槽上昇完了

フロント浴槽が水平位置で停止します。

❸

入浴開始

[入浴]スイッチを押します。
貯湯タンクから浴槽へ送湯されます。

⚠ **警告　送湯前にタンク内湯温表示で湯温確認し、送湯温度を手で確認**　[P16 参照]

❹

入浴時間カウント開始

[入浴]スイッチを押して、送湯が開始したとき、入浴時間計がカウントを始めます。

❺

送湯の停止

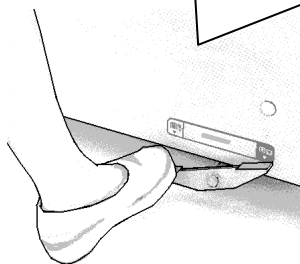
所定の湯量で自動停止します。

⚠ **警告　入浴中の入浴者の状態を常に注意**

入浴者の体格に合わせて送湯を途中で止める場合は、[停止]スイッチを押してください。

# 4 排水と出浴

❶

浴槽内の湯を排水

排水が完全に終了したら排水操作ペダルを閉じる側に戻します。

❷

フロント浴槽を下降させる

フロント浴槽下降スイッチを押すと、フロント浴槽が下降します。

⚠ **警告　入浴者の手足の挟み込みに注意**

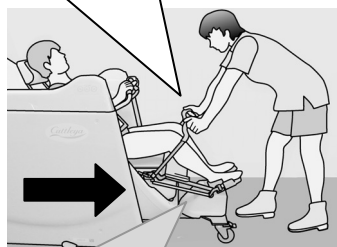
❸

フロント浴槽下降完了

フロント浴槽が格納位置で停止します。

# 5 入浴用車椅子の退出

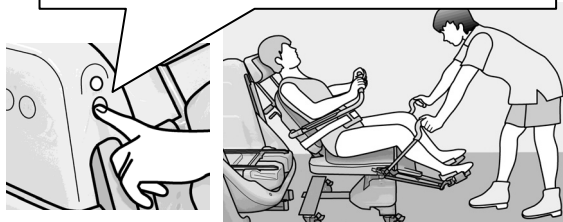
**❶** 車椅子上部を引き出す

浴槽内進退用ハンドルを持つ

⚠**警告　足元の脱落に注意**

**❷** 車椅子上部と下部の合体

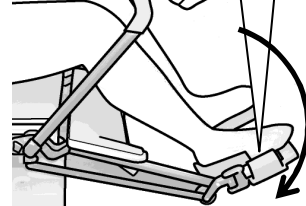
車椅子上部と下部が合体すると
椅子合体完了ランプが点灯します。

**❸** 浴槽との連結解除

連結解除スイッチを押して、車椅子を
浴槽から切り離します。

車椅子が浴槽から引き出されると
椅子合体完了ランプが消灯します。

**❹** 安全な場所に移動

キャスター
をロック

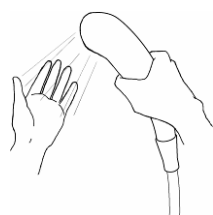
フットレスト
を下ろす

車椅子を浴槽から離れた位置に停止させます。

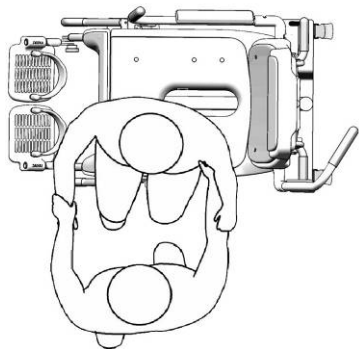
**❺** 清拭作業

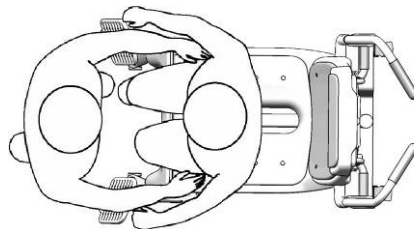
シャワー掛けや、清拭をします。

⚠**警告　必ず手で湯温を確認**

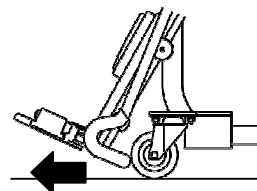
**ご注意**

- 連結解除スイッチは車椅子の側面へ移動して押してください。正面から押すと車椅子を浴槽へ押しながらスイッチを押してしまうことがあり、誤動作が起きて車椅子が落下する恐れがあります。
- 車椅子の移動は、入浴者に不安感を与えないように勢いをつけず、ゆっくり行ってください。

# 6 入浴用車椅子からの移乗

A．サイド（左または右側）から入浴者を降ろす場合

手すりを跳ね上げて、入浴者の足をサイド（左または右）へ回し、介助しながら立ち上がらせます。

B．前方から入浴者を降ろす場合

フットレストを外側へ跳ね上げて、前方から介助しながら立ち上がらせます。

**ご注意**

移乗の際、車椅子後部が浮き上がることがありますので注意してください。前輪２輪のキャスターがフットレストに近づくようにキャスターの首を振らせると安定性が増します。

**警告**　**・入浴者をフットレストの上に立たせない**

車椅子後部が持ち上がり非常に危険です。

**・車椅子を移動するときは、浴室の排水溝蓋の隙間等に注意**

キャスターが隙間等に挟まると、車椅子が傾いたり、転倒する恐れがあります。

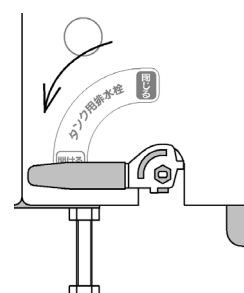
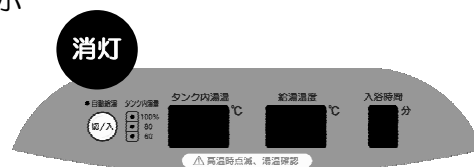
# 入浴終了後の操作

１日の入浴作業が終了したときや、昼休みのため入浴作業を休止するときは、以下の操作をしてください。

1　浴槽操作部の自動給湯ランプが消えていることを確認します。ランプが点灯していたら、自動給湯スイッチを押して消灯します。（1 日の入浴作業が終了した場合）

2　浴室の窓を開けるなどして、十分に換気をします。浴室の湿度を下げて、湿気による錆やカビなどの発生を抑えます。

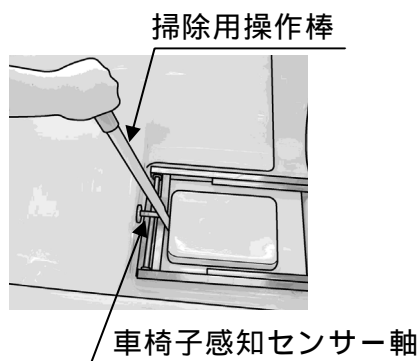
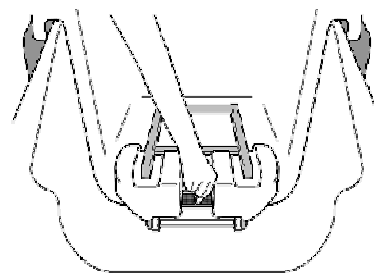
3　浴槽両側面のタンク排水レバーを開けるの位置に回して、タンク内の湯を排水します。（1 日の入浴作業が終了した場合）

4　フロント浴槽が格納位置にあることを確認します。

5　浴室外の浴槽用電源を切って、浴槽操作部の表示ランプ類が消灯していることを確認します。

**注意　電源を切る際は、必ず自動給湯ランプが消えていることを確認する**

**ご注意**　浴室外の浴槽用電源を切るときは、車椅子を浴槽から切り離してください。車椅子が浴槽に連結したまま電源を切ると、次に電源を入れたときに、通常の操作で車椅子を退出することができなくなります。誤って車椅子を浴槽に連結したまま電源を切ってしまったら、P.19 **停電時の操作**の手順に沿って、車椅子を浴槽から退出させてください。

# 日常のお手入れ

## 清掃

- 1日の入浴作業終了後は、浴槽内をきれいに洗浄してください。
- ホースやシャワー等で洗浄するのは、浴槽内側だけにしてください。外側、特に操作部や浴槽カバーの合わせ目には水をかけないでください。
  浴室床面を洗う際には水がはねかからないように注意してください。
- 操作スイッチは雑巾等で軽く拭く程度にしてください。
- 本浴槽は FRP 製です。たわし等で擦ると傷がつきますのでスポンジ等の柔らかいもので洗浄してください。
- 洗剤は市販の浴槽用洗剤をご使用ください。
- ステンレス部は水滴をそのままにしておくと水垢が残り汚くなります。乾いた布で水滴をきれいに拭きとってください。
- フロント浴槽の内面を洗浄するときは、車椅子を入れないで浴槽を入浴位置まで上昇させます。
  ① 排水操作ペダルが[閉じる]側になっていることを確認します。
  ② 付属の掃除用操作棒で、車椅子感知センサー軸を押すと 5 秒間自動的に上昇して停止します。
  ③ 車椅子感知センサー軸を押し続けながら、フロント浴槽[上昇]スイッチを押します。
  （車椅子感知センサー軸から掃除用操作棒を離すと停止します）

- フロント浴槽の排水口の金網は、取っ手を持って引き上げて外します。引っ掛かった毛髪やごみ等は取り除いてください。また、取り外した金網は必ず排水口へ差し込んでください。

**参考** フロント浴槽の下降操作については、車椅子上部が浴槽内にない場合でも、[下降]スイッチを押せば格納位置まで下降して自動的に停止します。

## ◆ 薬液殺菌方法

**（塩素濃度　約 1ppm の殺菌）**

◎毎日の入浴作業終了後に、実施してください。

| | 作　業　手　順 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 1 | 浴槽・車椅子を洗浄 | 浴槽クリーナー等を用いて汚れをとります。 |
| 2 | シャワーで洗い流す | 汚れをよく洗い落とします。 |
| 3 | タンクに 水(湯)を入れる | 100%にして自動給湯を切にしてください。 |
| 4 | 車椅子を浴槽内にセット | |
| 5 | タンク→浴槽へ送湯 | 車椅子が水(湯)に浸かる状態にします。 |
| 6 | **塩素４cc** を浴槽へ投入 | 液は**次亜塩素酸ナトリウム 6%溶液**。（満水の湯量 210ℓに対して、1ppm の塩素濃度になります。ー当社推奨値ー） |
| 7 | 水(湯)をよく撹拌 | 水(湯)を撹拌し、殺菌します。 |
| 8 | 3 分間放置 | |
| 9 | 排水する | |
| 10 | 車椅子を出す | |
| 11 | 3～10 を繰り返して他の車椅子の殺菌をする | 全ての車椅子を同様に殺菌します。 |
| 12 | 浴槽と車椅子をシャワーで水洗いする | 塩素をよく洗い落とします。 |
| 13 | 乾拭きする | |
| 14 | 電源を切り、室内を換気する | |

## メンテナンス

- 本浴槽は油圧駆動方式を採用しています。オイルタンク内にごみや水分が混入すると故障の原因となりますので、2 年に一度作動油の交換が必要です。
(弊社サービスマンにご用命ください)

# このようなときには

| 症　状 | 原　因 | 対　策 |
|---|---|---|
| 貯湯タンクに給湯されない。 | 電源が入っていない。（自動給湯時） | 電源を入れてください。 |
| | 給湯温度が 36℃～45℃以外になっている。<br>（安全装置が作動している） | 自動給湯ボタンを押して、給湯ミキシングを適温（給湯温度 36℃～45℃）の位置に調節してください。 |
| | 給湯水配管のトラブル | 最寄りの営業所にご連絡ください。 |
| 自動給湯が停止しない。 | 停電している。 | 給湯水配管の元バルブを閉めてください。 |
| | 自動給湯開閉弁のトラブル | 給湯水配管の元バルブを閉めた後、最寄りの営業所にご連絡ください。 |
| 入浴スイッチを押しても送湯されない。 | 電源が入っていない。 | 電源を入れてください。 |
| | 貯湯タンクの湯量が不足している。 | 貯湯タンクに給湯してください。 |
| | 貯湯タンク内湯温が 44℃以上になっている。（安全装置が作動している） | 貯湯タンク内湯温を 43℃以下に下げてください。 |
| | ポンプのトラブルか電気系統のトラブル | 最寄りの営業所にご連絡ください。 |
| 排水に時間がかかる。 | フロント浴槽排水口部にガーゼ、タオル等が詰まっている。 | 排水口に詰まっているものを取り除いてください。 |
| 送湯時に異音がする。 | ポンプのトラブル | 最寄りの営業所にご連絡ください。 |
| 給湯温度が一定しない。 | ストレーナーの目詰まり | 最寄りの営業所にご連絡ください。 |
| | 圧力調整弁のトラブル | 最寄りの営業所にご連絡ください。 |
| | 圧力比が適正範囲外 | 圧力比を適正値に調節してください。<br>P.12 参照 |
| | 他の設備で大量に使用している。 | ・使用時間の調整<br>・給湯器の能力アップ |
| 給湯温度が低すぎる。または高すぎる。 | ミキシング調節不良 | ミキシングを再調節してください。 |
| | 給湯水の圧力比が適正範囲外 | 圧力比を適正値に調節してください。<br>P.12 参照 |
| 椅子合体完了ランプが点滅している。 | 車椅子上部と下部のロックが不完全 | 車椅子上部を引き出してください。 |
| | スイッチの故障 | 最寄りの営業所にご連絡ください。 |
| 温度表示が E0、E1 または E2 を点滅表示している。 | 温度センサーの故障 | 最寄りの営業所にご連絡ください。 |

・その他、ご不明な点につきましては最寄りの営業所にご相談ください。
・ご使用中万一故障が発生したら、ただちに入浴者を安全な場所に退避させた後、
　使用を中止して最寄りの営業所へご連絡ください。

# 機器の保守・点検について

・本製品をご使用する際は、機器の管理者の方が下記の点検項目に基づき、必ず始業点検（日常点検）を実施してください。

・長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。

・点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

・清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

## ● 始業点検項目

| 区分 | | 点検内容 | 点検方法 |
|---|---|---|---|
| (電源投入前) 外観 | | 周囲の障害物の有無 | 目視 |
| | | カバー、フロント浴槽のはずれ、ガタつき、取付ネジの緩み、脱落 | 目視または、触って確認 |
| | | 浴槽内の汚れ、または不要物 | 目視 |
| | | 貯湯タンクからの湯の漏れ | 目視 |
| (電源投入後) 機能 | | 温度表示・時間表示の点灯 | 目視 |
| | 自動給湯を入 | 給湯ミキシングの温度調節 | 高温側と低温側に回し温度表示が変化することを確認 |
| | | 高温時または低温時の給湯停止 | 給湯温度を 46℃以上にしたとき給湯温度表示の数字が点滅し、給湯が停止することを確認。また、35℃以下にしたとき給湯温度表示の数字とcOが交互点灯し、給湯が停止することを確認。<br>**(確認後、40℃前後の適温に戻すこと)** |
| | シャワーを出す | ハンドシャワーミキシングバルブの温度調節 | 温度調節ノブを回し高温／低温の調節が可能か手で確認<br>**(確認後、40℃前後の適温に戻すこと)** |
| | | ハンドシャワー高温警告ランプの確認 | 温度調節ノブを高温側に回し、警告ランプが点滅することを確認<br>**(確認後、40℃前後の適温に戻すこと)** |
| | | フロント浴槽昇降の作動確認 | 昇降に異常がないか確認 |

## ● 定期保守点検契約のお勧め

・製品を長期間正常な状態で安全にご使用できるように保証期間後の「保守点検契約」の締結をお勧めいたします。詳しくは別添の「保守点検契約のお勧め」をご覧になるか、最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。

# 保証とアフターサービス

## ◆保証書と保証期間

・保証書（別添）はよく読んで大切に保管してください。保証書がないと保証期間中でも代金を請求させていただく場合があります。

・保証期間は、正常な使用状態で故障した場合、本体フレーム及び FRP 部品は 5 年間、それ以外は 1 年間です。詳しくは保証書をご覧ください。

## ◆修理を依頼される場合

・修理を依頼されるときは、下記のことをお知らせください。

機種名　　：　*CTA-110*

お買い上げ：　　年　　月

故障状況(できるだけ詳細に)

住所，氏名，電話番号

・メーカーより指示のあるとき以外は、決してカバーを開けたり、機器を分解したりしないでください。

## ◆損耗品

（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

・正常な使用において、交換の目安が**約２年**のもの。

**シャワーヘッド / 作動油**

・正常な使用において、交換の目安が**約３年**のもの。

**ミキシングバルブ / シャワーホース / 給湯給水ホース / 排水ホース**
**油圧ホース / 温度センサー / 止水栓パッキン**

**点検の時期が来ましたら弊社営業所までご用命ください。点検して必要により有償交換いたします。**

## ◆耐用期間

10 年：保守点検などの当社推奨環境で使用された場合

## ◆保守部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

# 仕 様

| 型　　式 | | CTA-110 |
|---|---|---|
| 外形寸法 | | 1715(Ｌ)×950(W)×1300(Ｈ)mm（フロント浴槽下降時）<br>2140(Ｌ)×950(W)×1300(Ｈ)mm（フロント浴槽上昇時） |
| 浴槽内寸法 | | 1650(Ｌ)×595(W)×580(Ｄ)mm |
| 実使用湯量 | | 約 185ℓ（身長 165cm、体重 65kg の場合） |
| 質　　量 | | 約 315 kg |
| 貯湯タンク容量 | | 約 225ℓ |
| 電　　源 | | 単相 100Ｖ　50/60Hz 15Ａ |
| 電　　力 | | 400/600W |
| 材質 | フレーム･貯湯タンク | スチール＋粉体塗装、ステンレス |
| | 浴槽・カバー | ＦＲＰ製 |
| フロント浴槽駆動方式 | | 電動油圧式：単相 100V　200W |
| 自動給湯システム | | 適正湯量自動停止、高･低温時自動停止 |
| 安全機構 | | 高･低温時自動給湯/送湯停止機構、漏電ブレーカー |
| そ の 他 | | 入浴時間計、給湯温度計、タンク内湯温計、椅子合体完了ランプ |
| 付 属 品 | | 取扱注意銘板、掃除用操作棒 |

注．都合により予告なく仕様の変更を行う場合があります。